

TOPICS

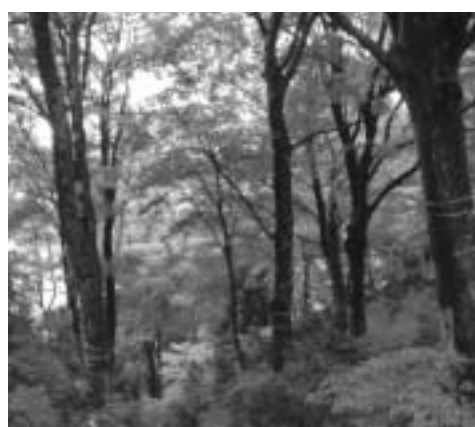


↑ 小学校でおはなし会をしている様子

いぶしの会
木之本町の有志による児童図書研究グループ「いぶしの会」では、「絵本の楽しさを伝える」をテーマに、おはなし会などを開いて絵本や紙芝居の読み聞かせ活動を行っています。また、読み聞かせに使う絵本や紙芝居などの自主制作にも熱心に取り組んでおり、おはなし会で披露される作品はどれも好評を得ています。

湖北の山にブナを植える会
貴重なブナ林が多く残る余呉の山々。そんなブナ林を守り、増やそうと、平成9年に「湖北の山にブナを植える会」が設立されました。会の活動は、ブナを種子から採取して育て、山に返すという地道で気の遠くなる作業が中心です。その成果が出るのは孫やひ孫の世代かもしれませんが、会では、次の世代のために黙々と頑張ることを喜びに活動されています。

また、そんな思いが伝わり、平成13年にはみどりの少年団の手による苗の植え付け作業もおこなわれました。少しずつ次の世代に会の思いが受け継がれているようです。



← 淀川の源流、余呉の山々に残されている貴重なブナ林



→ 綺麗な桜を観るために、丁寧に草刈りをする守る会のみなさん

大浦桜を守る会
海津大崎(高島市)から西浅井町大浦へと続く桜並木で桜の保全作業に取り組まれている会。きっかけは、県道沿いに植えられた桜の木が病気になること。それをなんとかしたいという思いが芽生えた人たちが集まり、自分たちの手で守っていこうと発足されました。

今年で10年目となるこの会は、30代から70代までの大浦区民が中心になり、年3回の草刈り作業、蔓や桜の枝伐りや植樹などを行い、桜を守られています。活動を通じたふれあいから、世代間のつながりも出来、地域の輪づくりにも役だっています。

やれることから楽しんで
このように、すでに各地域において、住民のために、住民自身の手で様々な活動やサービスが行われています。

新市では、様々な行政サービスや地域課題に取り組む住民や地域団体、事業者が、楽しんで続けられるような支援を行いながら、「自律と協働」による地域づくりやまちづくりをめざしていこうとしています。

タネから花咲か塾
長浜市の北部、田根地区で地域が抱える様々な課題をまちづくりのエネルギーに変えて、地域に市民自治の花を咲かせようと発足した「タネから花咲か塾」。その活動も今年で4年目を迎えました。

田根地区は、市の地域づくり指針に基づき、いち早く地域づくり協議会を設立し、地域のことは地域で考えていこうと活動を始められたところです。

現在は、地域の課題解決に向け、古民家を活かした地域活性化について大学と連携して検討したり、空き家を利用した高齢者サロンを開設したり、自分たちの手で様々な取組を始められています。

新しい長浜市ってどんなまち

⑥住民自治



→ 姉川のかすみ堤で開催された今年の桜祭り

新長浜市では、合併基本計画にもあるように、「住民自らのまちづくり」を推進していくことを大きな目標にしています。

そのため、各地域における自治会活動をはじめ、ボランティア活動、NPO活動等の自主的な住民活動の促進や、地域が担うことがふさわしい公共サービスの担い手となる地域づくり協議会などの取組支援を行っていくこととしています。

これからは、今まで各地域で培われてきた「自律と協働」の心と取組を活かし、住民主体のまちづくりを進めていくことが大切です。今回は、そういった活動をいくつか紹介します。

自分や地域でできることを楽しむ

地域のまちづくり

虎姫町の自治会は、地域のまちづくりがさかんに行われており、その一つの宮部区は各種団体で助け合い安全で安心して暮らせる町を目指しています。今年、百年前、大きな被害が出た姉川地震を当時の写真など振り返るとともに、地震体験や自警団による放水により区民の防災意識を高める活動も行われました。

また、地域を水害から守るため先人が築いた姉川のかすみ堤では毎年桜祭りが盛大に行われ、子どもたちからお年寄りまで全員が参加し、交流を深めています。宮部区は地域の歴史や自然を大切にしながら地域づくりをしているまちです。

湖北おやじクラブ

さあ、おやじの出番だ！私たち大人がやらなければならぬこと……。子どもが叱れない・子どもと本気で話ができない親。こうした状況が少しでも変わるきっかけになればと願い「勇気と連帯」を合言葉に湖北おやじクラブは創設されました。

クラブでは、昔懐かしいゴム飛行機飛ばしや、家庭を離れて児童が共同生活をしながら学校に通う通学合宿の運営、学校の門松作りなどに取組みながらいろんな人達と交流を重ねています。これからも、おやじどうしが楽しみながら子ども達も関わっていききたいとされています。



↑ 子どもたちと料理をする湖北おやじクラブのみなさん

すずらん



↑ 韓国の民族衣装を着てサムルノリを演奏するすずらんのみなさん

平成11年7月に結成以来10年間、高月町雨森地区の小学校女子児童が中心に活動を行っているサムルノリチーム「すずらん」。韓国の伝統音楽である「サムルノリ」(4種の楽器で演奏)を通して、郷土の偉人「雨森芳洲」の顕彰と、日韓友好親善の推進に貢献しています。

また、病院や福祉施設への慰問活動をはじめ、各種文化祭等への出演、毎年訪れる韓国青少年の歓迎行事等での演奏は、みんなに驚きと感動そして笑顔を与えてくれています。この小さな日韓親善大使の活動は、地域の元気の素となっています。